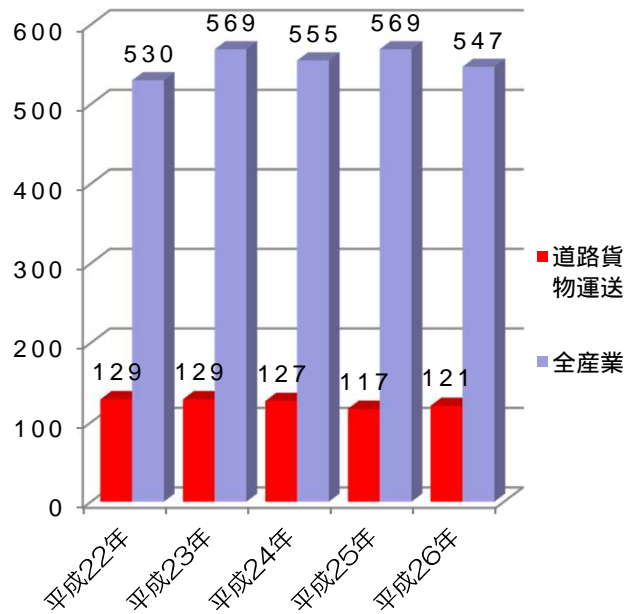


荷役作業における労働災害を防ごう！



亀戸労働基準監督署

亀戸署管内の労働災害発生状況

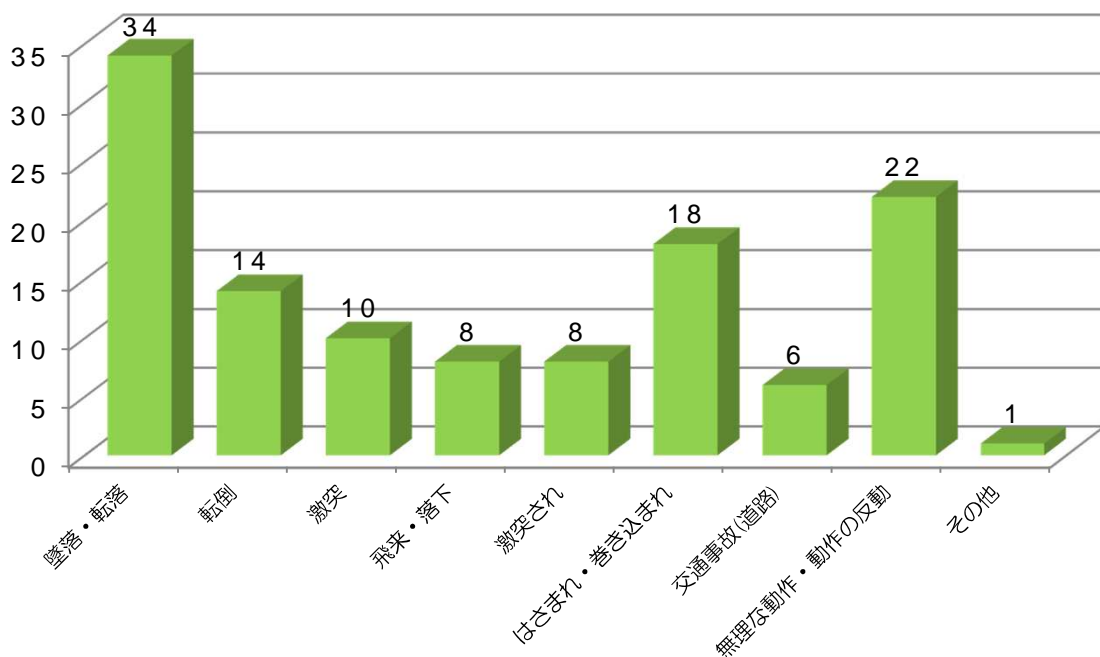


亀戸署管内においては、過去5年間右のグラフのように労働災害(休業4日以上)が発生しており、うち道路貨物運送業に従事する方の労働災害の発生件数が最も多く、かつ都内18署の中で一番多くなっています。

平成26年に発生した道路貨物運送業での災害で最も発生が多かったのは、グラフ1のとおり、「墜落・転落」で、次いで「動作の反動」、「はさまれ」の順となっています。

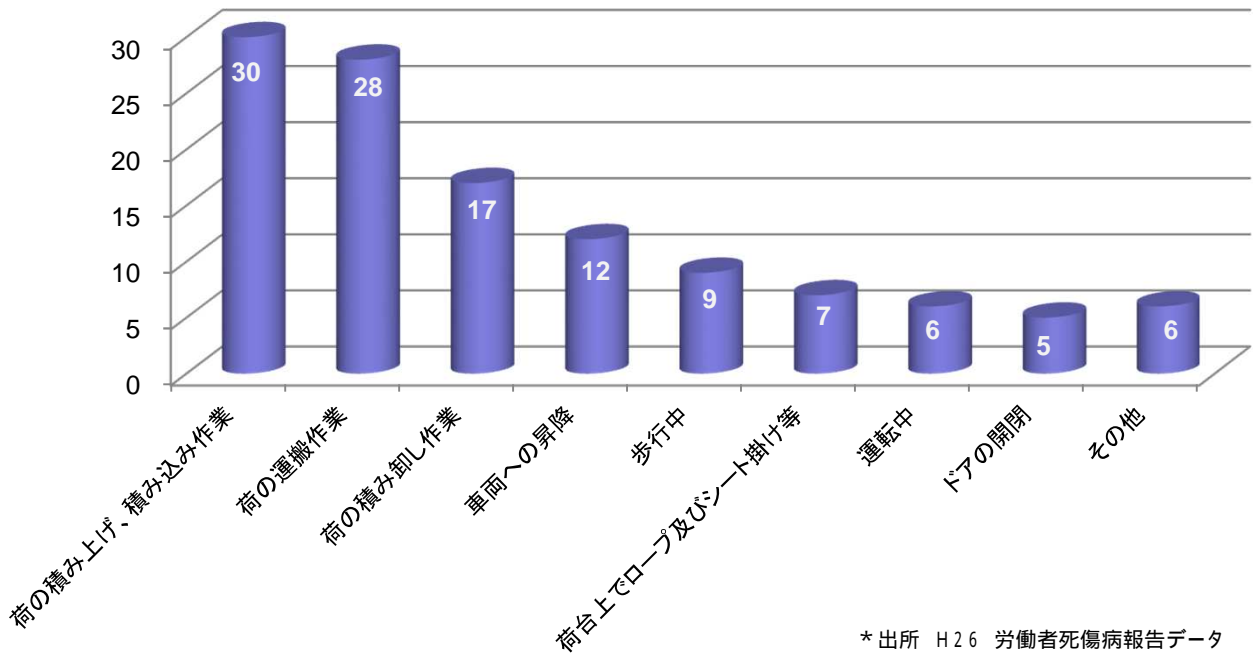
また、災害の多くは、グラフ2のとおり、倉庫内や客先での「荷の積み込み、積み降ろし」作業時に発生しています。災害を発生させないために、1.「安全な荷役作業のポイント」の教育と2.「リスク・アセスメント」の実施により、荷役作業の災害を防止しましょう。

グラフ1 事故の型別発生状況



* 出所 H26 労働者死傷病報告データ

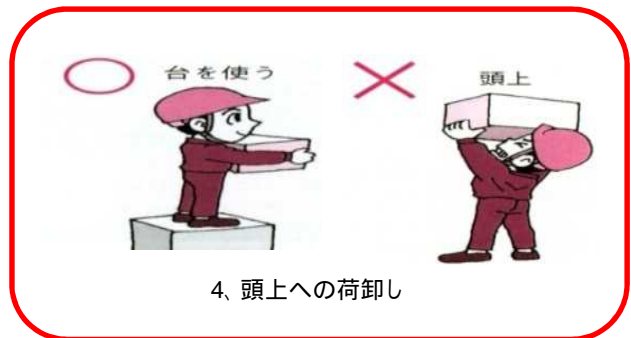
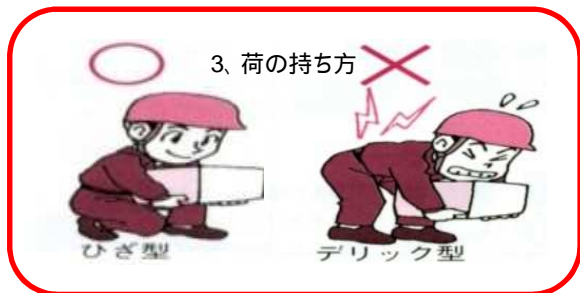
グラフ2 作業の形態別発生状況



* 出所 H26 労働者死傷病報告データ

1.安全な荷役作業のポイント

荷役作業での災害は、多くが基本を無視した作業で発生しています
以下のポイントを確認！さらに別紙マイチェック表で点検を実施し、安全作業を進めましょう！

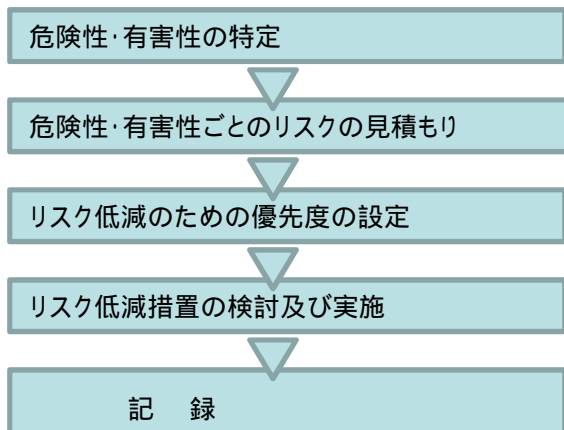


2. リスク・アセスメントを実施しよう

リスク・アセスメントは、作業に潜在する労働災害、健康障害の発生危険の度合いを「リスク」としてとらえ、危険有害要因ごとのリスクの大小を評価して、重要なものから優先度を決めて実施していくことができるようにするための安全管理手法です。

従来の取り組みにリスク管理手法を加えて継続的・効果的な安全衛生管理活動としましょう。

リスクアセスメントの基本的な流れ



リスクアセスメントの効果

- 1、災害要因を事前に排除できます。
- 2、職場のリスクが明確になります。
- 3、職場のリスクに対する認識を管理者と作業者とが共有できます。
- 4、安全対策について、合理的な方法で優先順位を決めることができます。
- 5、残されたリスクについて、「守るべき決め事」理由が明確になります。
- 6、職場全体が参加することにより「危険」に対する感受性が高まります。

3. 安全衛生管理の実施

事業者は荷役作業による労働災害を防止するために次のことを実施しましょう。

- 1、経営トップの災害防止にかかる基本方針の明確化
- 2、安全衛生管理体制の整備
- 3、リスクアセスメント、危険予知活動(KY活動)等の実施
- 4、安全作業マニュアルの作成及び見直し並びにこれに基づく安全衛生教育の実施
- 5、フォークリフト運転等、就業制限従事者の計画的な資格取得
- 6、適正な運行計画の確保や客先における安全作業の実施等のための荷主との連携

4. 安全衛生教育を実施しよう

リスクアセスメントの実施

交通労働災害防止
のガイドライン

荷役運搬作業における
安全作業マニュアル

荷の積卸し場所での
作業間の連絡調整



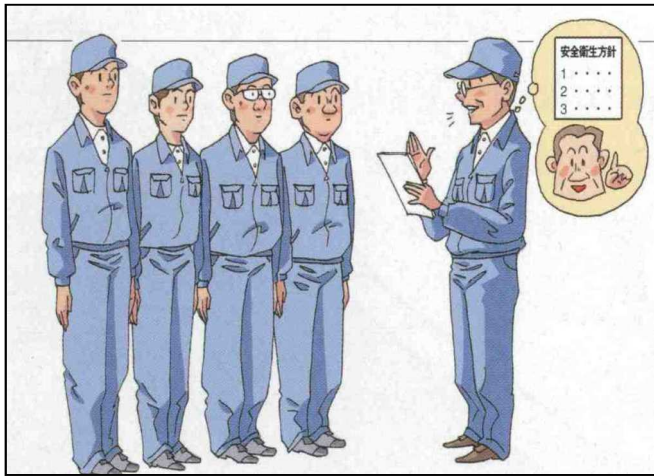
荷役運搬機械・器具・
用具の整備・点検方法

作業指揮者の適正
配置、職務の励行

墜落・転落災害の
防止対策の徹底

腰部負担の軽減化、
腰痛予防体操の励行

マイチェックで労働災害を防止しましょう！！



作業前点検を実施し、作業手順を遵守して作業を行いましょう

作業は慌てず、焦らず、安全確認を忘れずに、無理な行動はとらないようにしましょう

「マイチェック表」は運行後点検時に責任者(運行管理者等)に渡してください
ご安全に！！

マイチェック表

年 月 日 氏名

チェック項目		チェック欄
墜落・転落防止	1 保護帽を被り、あご紐をしめる	
	2 滑りにくい靴を履く	
	3 荷台、運転席から飛び降りない	
	4 荷台への昇降は、ステップを使用する	
	5 「あおり」に足をかけて作業を行わない	
	6 荷台等の端では後ろ向きで作業を行わない	
	7 作業場所、作業方法、足場、手すりの位置を確認してから作業を行う	
	8 ロープを点検し、損傷のあるものは使用しない	
	9 ロープフックからロープの外れがないことを確認する	
	10 ロープ掛け、シート掛けを複数で行うときは事前打合せを行う	
転倒防止	1 段差、障害物を確認してから作業を行う	
	2 緩傾斜となる渡り板を使う	
	3 ロールボックスパレットは後ろから押す	
挟まれ防止	1 フォークリフトやトラックの進路内に立ち入らない	
	2 テールゲートで昇降するときは、立つ位置を確認する	
	3 「あおり」や後ろ扉を開閉するときは、手を挟まない箇所を持つ	
	4 共同作業者が見えないときは、トラックを後退させない	
腰痛防止	1 荷は出来るだけ身体に近づけ、腰を下ろしてから持ち上げる	
	2 重い荷物は、無理をせずに、複数で運ぶ	
	3 無理な姿勢での長時間作業は行わない	

チェック項目ごとに確認し、実行できたらチェック欄に「」、実行できていなかったら「×」を記入